

からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……

2026.1.26～2.1（試行版）

1.26 月曜日	「隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、公にならないものはない。」(マコ 4:22) ●天地創造から旧約の時代に至るまで、秘められてきた神の計画とはまさに「イエス・キリスト」であった。この世界の秘密はキリストに啓示されている。まさに、「エッケ・ホモ」（この人を見よ!）である。
1.27 火曜日	「また、イエスは言われた。『神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。』」(マコ 4:26-27) ●私たちは人に伝道する時、自分で水を注ぎ、肥料をまき、工夫しようとする。しかし、神の言葉はその人の中で聖霊が育むのであるから、私たちは委ねてその種を蒔き続けたい。
1.28 水曜日	「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえて示そうか。それは、からし種のようなものである。」(マコ 4:30-31) ●神の国は、初めは小さくても、成長することで大木のようになる。私たちに到来している神の国は、今も確実に成長し続けている。未来への大いなる希望をキリストにおいていただいている。
1.29 木曜日	「イエスは言われた。『なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。』」(マコ 4:40) ●湖上で突風に襲われる弟子たち。一方、寝ているままのイエスに弟子たちは声を荒げるのも無理はない。そこで示されたのイエスの自然をも支配する権威である。この御方が共にいるならばどんな荒波をも越えて行ける。
1.30 金曜日	「イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。」(マコ 5:13) ●人間の内には数千の悪霊、すなわち罪が内住している。しかし、イエスの権威はそれを打ち破り、従わせる。
1.31 土曜日	「もし、生理期間中でないときに、何日も出血があるか、あるいはその期間を過ぎても出血がやまないならば、その期間中は汚れており、生理期間中と同じように汚れる。」(レビ 15:25) ●「血」とは「いのち」そのものであり神聖なもの。他の者が触れることは許されなかった。生理学的にも血液はウイルスの主要な感染源である。神学的・生理学的要因によって定められた律法であった。
2.1 日曜日	「イエスは言われた。『娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。』」(マコ 5:34) ●長年の苦しみ、誰も救えないという絶望の中で信仰は躍動する。イエスは「娘よ」と優しく語りかけ、その信仰を褒め、からだの癒しを与えた。